## 墓地ではお花とお線香を用意しています

**法要に出席するのは三年忌まで。葬儀** 

人ならば、喪服を着るのは四十九日ま に参列して休暇になってしまう疎遠な ならない関係ならば、

喪服を着て年忌

葬儀だからといって休んでも、

休暇に

引き」です。つまり、

学校や勤務先を

ふと思いつきました。キーワードは「忌 はないかと、ずうっと考えてきて最近 つでも喪服を着ていれば安心」なんて なくなっているから、「年忌法要はい れません。でも、今はそんなルールが てこともないから、かえって楽かもし それを守れば「空気がよめない」なん 律なんかで決められたら窮屈ですが、 法律(服忌礼)があったようです。

いう野暮な事になったわけです。

そこで、

わかりやすくて簡単な基準

喪服のル

仏事の服装についた。 年忌法要の時には、何回忌であろうと 檀家にはおられないのですが、各家の ぎのような説明がされています。 喪とは何なのか。広辞苑で調べるとつ はない。というかいつまでも黒々とし も黒い喪服で来られる方がいます。 ているのは不粋というもの。そもそも から、喪が明けたら、喪服を着る必要 い喪服を着てこられる方は、松岩寺の 喪中に身につけるから喪服です。だ 彼岸法要やお盆のおせがき法要に黒

ぞれの親疎によって異なる厳密な喪の

法

もっとも、明治の初め頃まで、それ

得しないし行動できないのだから。

体的に書かれたマニュアルがないと納

象的で判断に困ります。

現代人は、

具

親疎によってその期限に長短がある】 の教えだからです。 れは仏教ではなくて、孔子さまの儒教 らしい」と、遠慮気味に書くのは、こ 三か月の五種類があるらしい。「ある けて、三年・一年・九か月・五か月・ な期間があるというのです。 ひとことで喪中といっても、 を避けて家に籠もり、身を慎むこと。 【人の死後、 その親族が一定期間、 大きく分 いろいろ

疎遠な人のこと。そういわれても、 によるという。親疎とは、 決まるかというと、故人との「親疎」 それで、 五種類の期間の長短は何で 親し 人と 抽

のですが、

いかがでしょうか。

で機会を改めて。

できないけれど、こうした恥ずかしい経験談は

いくらでもご紹介できるのですが、

紙面の都合

ことがあります。

人生のためになる仏教の話は

たり)と読んで先輩からそれとなく教えられた

にん)」という大事な仏教用語を(どうぎょうふ まり仏僧である私は、「同行二人(どうぎょうに 娘のことを笑っていられない。愚かな父は、つ

いるとのこと。有名な歌なのになぁー○愚かな

www.shoganji.or.jp

これってわかりやす

い基準だと思う

不連続シリーズ「いっぷく紹介」 その6 年ですから、直接ご指導を受けたことは ありません。しかし、敬山老師の絵には、

昭和十五年平林寺住職就任、昭和五十年 に逝去されています 敬山老師は、明治三十年福岡県生まれ、 家白水敬山(しろうずけいざん) 老師です。 の染筆は、埼玉県新座市・平林僧堂元師 私が平林寺に入門したのは昭和五十五 今回、ご紹介する「平林禅莊一枝梅」

す。でも、普通のものとは少し違ってい れる何枚もの絵を見つけたことがありま 紙に描かれた敬山老師の書きぶりと思わ こんな思い出があります。 私の修業時代に平林寺の蔵の中で、 した。半紙の黒々とした墨の跡が、朱 **¥** 

誰に絵を習われたのか。何枚もの朱正の中に「ゆき」と書かれた 遊亀さんに絵を習われていたのです。小倉遊亀さんは滋賀県に生 ものがありました。「ゆき」とは近代日本画の巨匠・小倉遊亀(お 絵を送って添削していただいた習作にちがいありません。でも、 色の筆で修正されているのです。敬山老師がどなたかにご自分の ぐらゆき=1895 ~ 2000)さんのことでしょう。 敬山老師は小倉



平林禅莊一枝梅 牧牛窟敬山

松岩寺は昭和20年の戦災で ほとんどの建物と仏具を焼失 してしまいました。現在ある ものはかろうじて焼け残った

ものか、先々代と先代がそろ

えたものです。その中から、

興味深い墨跡(ぼくせき)の 一幅を機会をみつけて、紹介

61

っぷく紹介

紹介する墨跡は、伸びやかな 中に厳格さが漂う筆づかいも

あれば、力強さの中に優しさ

が漂う筆づかいもあったりと

個性豊かです。そこには、筆 をとった禅僧の生きかたその

ものが現れています。崩し字

になっていて読みづらい字も

少なくないのですが、一語-句の意味を理解できなくても

見ているだけで一服の清涼剤 になりはしないでしょうか。

していきます。

その六

花押 縦275°×幅245°

尾に目をやると「遊亀代」と遠慮気味に書かれている。 受章画家の自筆手紙だから」なんてウキウキしながら末 平林寺に出入りしていたという。私が道場に入門した頃 せず、個人の宝物にしてしまおう。なにしろ、文化勲章 展に出品している現役画家でした。そんな日本画の巨匠 結婚したから。鐵樹師は山岡鉄舟の弟子で坐禅をよくし まれて旧姓は溝上。小倉姓になったのは、小倉鐵樹師と い企てが、私の脳裏をよぎります。「この手紙。誰にも見 の巻紙に毛筆の流麗な筆致でした。読みすすむうちに悪 にではなくて、道場で私が勤めていた役職宛です。 から、手紙をいただいたことがある。もちろん、 倉遊亀さんはご高齢 (九十歳)ではあったけれど、未だ院 は敬山老師も鉄樹師も既に亡くなられていましたが、 私個人 和紙

ばならないが、梅は年老いて美にますます深みを増す」。今回ご紹 言葉を遺されている。「人間は年老いて老醜のみじめさを味あわね 書いたら叱られるでしょうか。 介した禅僧の梅図には、艶やかな女流画家の呼吸が流れている。 亀大姉」。晩年はよく梅の画を描かれたようです。そして、 成十二年七月に百五歳の長寿を全うされる。戒名は「大梅院天地游 代筆されたのでしょう。画家はその後も活躍されて、平

私のような不心得者がいるのはお見通しで、秘書の方が

編集後記

ならば、 「ワ」だと言うと、 平仮名だから間違えたのでしょう。「ハ」でなく と歌っている。音符に添えられた歌詞がすべて のー」。「早春賦」です。でも、 あるらしく、歌の練習をしている。「春は名のみ ている大学を尋ねたら、東京の本郷にあるT大だと きし」と読む場合もある。マッタクーと思って、通っ 生がいました。「いろがみ」に違いないのだが、「し ○ところで、「色紙」を「いろがみ」と読んだ女子大 る場合は、この手の細工がほどこされているとか。 数百年も前の名僧のまったく同じ墨跡が数枚でてく 墨汁は、 を剥いで表具したのです。和紙の裏にまで浸透した 紙の色紙よりは、表装に仕立てた方が、見栄えもよ いう、うーん○さて、娘が学校で音樂のテストが くなるし、保管しやすいから分厚い色紙のうわがわ もともとは色紙(しきし)に書かれたものです。 しく「ハルワナノミ」でなく「ハルハナノミ」 ○右ページの「いっぷく紹介」でご紹介した梅図は 悪いことを考える者が出てくるのが世の常 一枚や二枚けずりとっても大丈夫。大丈夫 クラス全員が「ハ」と歌って 愚かな我が娘ら E-mail chief@shoganji.or.jp\_